



申12号「電気部門の変革2022」に関する申し入れを行う！

「電気部門の変革2022」については、申11号の申し入れを行い55項目の議論を行ってきました。この交渉を通じて、一定の内容は明らかになりました。そして職場からは「職場で管理者に聞いても答えてもらえなかった事を知ることが出来た」「会社はもっと現場を見て施策を進めないとダメだ」「組合があるからこそこの内容を知ることが出来た」などの声が寄せられています。

一方で、「モニタリング装置」や「旗揚げシステム」のように、詳細が検討段階の事案が複数ありました。そのため、異動や出向など、今後の人生設計まで含めて、多くの不安の声も寄せられています。

これまで、JR東日本の電気設備は、新技術の導入や、直轄とパートナー会社が役割分担を明確にして、社会インフラである鉄道の礎を築き上げてきました。やいがいのある仕事ではありますが、その反面で、時間管理が厳格、夜間作業が多く不規則、感電・墜落・触車等の労働災害のリスクが高いなど、肉体的・精神的な負担が大きいのも事実です。パートナー会社においては、工事量の増加もあいまって離職者が多く、協力会社の確保もままならない状況です。そういった厳しい環境が、労働災害や事故・事象の要因となっていると言わざるを得ません。

今回の「電気部門の変革2022」は、現在抱えている課題を将来に先送りするのではなく、現場で働く組合員、社員、パートナー会社社員の安全、健康、働きがいの確保に資するものでなければなりません。基本要件においては、列車運行の可否が判断できる技術力の維持・向上、余裕の持てる作業間合いを確保し、わかりやすく誰もが守れるルール策定など、労働条件向上も踏まえた項目を申し入れています。また、モニタリング装置導入に関しては、今後導入される場合において、現場での試行→検証→改善→本実施という、施策の基本的な流れを守ることも求めています。

各システムの将来の働き方を見据えて職場から寄せられた声に基づき交渉していきます！

全39項目の申し入れを行いました！

- 〔 施策全体について 〕 5項目
- 〔 電気部門の新たな新幹線体制の確立について 〕 8項目
- 〔 在来線の効率的なメンテナンス体制の確立について 〕 7項目
- 〔 技術センターにおける業務の簡素化について 〕 8項目
- 〔 スマートメンテナンス導入等によるメンテナンス業務のスリム化について 〕 3項目
- 〔 エネルギー管理センターの効率的なメンテナンス体制の確立について 〕 5項目
- 〔 異常時対応について 〕 3項目

